

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもスポーツ園SCF		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		~ 2024年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		~ 2024年 11月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域では数少ない集団での運動・スポーツを媒体とした療育を実施している施設として、保護者からの興味や期待が大きい。また同一グループ内のネットワークによって、運動指導専門のインストラクターの確保ができる。	運動を指導する専門インストラクターと活動を支援する児童指導員が役割を分担し、子どもたちが、楽しく効果的に療育を受けられるように配慮している。	集団での活動のみでなく、個別プログラムの提供開始を検討する。
2	室内ではあるが、10人程度であれば、スポーツでしっかり体を動かすことができるスペースを確保している。	学校の家庭学習課題に取り組む際には、机、椅子を用意し、運動時には倉庫に収納するなどして、スペースを有効活用している。	パーティションなどで時間帯によってレイアウトを変更することで、学習ゾーンと遊びやスポーツのゾーンを区別できるようにする。
3	送迎用車両を4台確保していることで、利用児童全員を対象に送迎が可能である。	方面(場所)と時間を調整し、効率よく配車を実施している。	現在は、各車両職員1名で送迎を行っているが、近い将来、運転業務担当と引率業務担当の2名体制とし安全面も強化する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ICTおよびSNSの有効活用が進んでいない。	グループとしてはパソコンの設置やデータ管理の一元化は進んでいる中で、職員が使いこなせていない部分が多い。未だ手書きの帳票が多く、ペーパーレスが進んでいないことで、職員が負担に感じていることが多い。内容に応じたSNSと電話連絡の使い分けができていない。	児童の個人記録などについても記述のみでなく、評価基準を明確にしたうえで数値化や選択肢を取り入れることで、データを電子化し、職員の負担を軽減する。
2	個々の児童が来所してから運動プログラムに参加するまでの時間について、施設での過ごし方やタイムスケジュールが体系化されていない。	これまで、児童に対し個別課題は提供していなかったが、今後はその必要性がより高まっている。	運動指導専門のインストラクターとの協働により、個別のニーズに対応できる体制を構築する。
3	運動スペースの広さは十分であるが、天井が低いため、高学年が球技や器械体操を行う際に、難しい場合がある。	施設の移転は現状困難なため、運動種目や内容などを工夫する対処が必要。	プログラムによっては、近隣の運動施設(フットサルコート)を使用するなど検討。